

# (仮称) 太良上池・下池公園 保全活用計画策定等検討委員会

## 第1回 ニュースレター

開催日：2018年8月2日 19:00～

出席者：計29名(参加者13名、事務局13名、傍聴人3名)

(仮称) 太良上池・下池公園 保全活用計画策定等検討委員会がはじまりました。

この検討委員会は、これまでの経緯を踏まえて、整備方法や保全・管理方法等について、ワークショップ方式で検討を進めるものであり、その結果を基本設計、実施設計、保全活用計画に反映いたします。

これから、検討委員会の様子をこのニュースレターでお伝えします。第1回目は、自然環境調査の結果をもとに意見を出し合いました。

当日の様子についてお伝えします。

### ◆ 今回の内容 ◆

1. 開会
2. 委員長の選出について
3. 委員会の設置趣旨について
  - (1) これまでの経緯、  
検討委員会で協議する内容
  - (2) 開催スケジュール(案)
4. 議題
  - (1) マメナシ自生地の自然環境保全のあり方について
    - ① 自然環境調査結果
    - ② 意見交換
  - (2) 部会の設置について
    - ① 公園名称部会
    - ② マメナシ専門部会
    - ③ 意見交換
  - (3) その他
5. あいさつ
6. 閉会



第1回検討会の様子

## 1 開会

小牧市都市建設部から開会の挨拶がありました。



皆様から様々なご意見をいただきながら、保全活用計画や活用に関する協議ができると良いと思います。よろしくお願い致します。

小牧市都市建設部 小川次長

## 2 委員長の選出について

16名の委員と、事務局の紹介があり、委員の互選により、岡田委員長が選任されました。



いよいよ最終の形に向かって進む検討会がスタートしました！皆様と共に計画を進めていけたらと思います。

名古屋造形大学 岡田委員長

## 3 委員会の設置趣旨について

これまでの経緯、検討委員会設置の目的や協議内容、スケジュールについて説明がありました。



基本計画策定後、1年間の環境調査を行ってまいりました。その結果をもとに、また活動に向けた検討会を開催することができて、非常に嬉しく思っています。

オオバ小林

## 4 議題

### <マメナシ自生地の自然環境保全のあり方について>

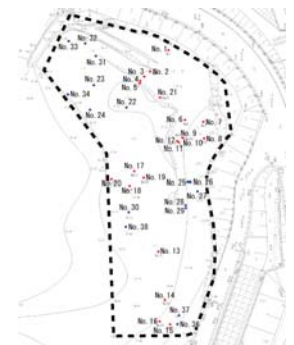
自然環境調査の概要や以下の項目の調査結果、大草マメナシ自生地の現状について、説明がありました。また、マメナシ自生地を保全していくための必要な方策(試案)について説明がありました。

#### 個体群現況調査

- ・ 毎木調査
- ・ 照度調査
- ・ 土壌湿度調査
- ・ 花粉媒介昆虫類調査
- ・ 結実率調査
- ・ 生長調査

#### 周辺環境調査

- ・ 地下水脈調査
- ・ 生育環境調査



### <部会の設置について>

「公園名称部会」と「マメナシ専門部会」の設置について、提案を行い、意見交換をしました。

#### 「公園名称部会」

…地域の方々や市民にイメージが伝わりやすく、親しみの持てる公園の名称を、地域の方々の意見をもとに設定する。

#### 「マメナシ専門部会」

…基本設計、実施設計に向けて、大草マメナシ自生地のあり方について検討する。

## 5 あいさつ



今後とも、もっと自然を残していくために様々な意見をいただければと思います。

小牧ヶ丘区長 永井委員

### ◆ 次回の検討委員会 ◆

次回はマメナシの生態的な扱いの方針と、全体計画のたたき台を示します。

## 意見交換の内容

凡例

■：重要な提言

■：今後の検討課題

### 1. 確認できたこと、方向性が見えてきたこと

#### 【現状の認識】

- マメナシの子孫が育っていない。このままでは天然記念物の自生地ではなくなる。  
現在の老木が枯れても幼木が発生・生育する状態にする必要。それには水分が足りない。
- マメナシは光を好むが、他の植物が侵入して陰になって弱っている所がある。

#### 【水脈の存在と実生】

- かつては2つの水脈があった。北の水脈はかろうじて残るが、東の水脈は消滅し乾燥化が進む。
- 今年の春の調査で、ないと思われていた実生苗が確認された。

#### 【低い結実率の要因】

- ずっと実が生らず、低い結実率のままとなっている木があることが問題。
- 結実率が良し悪しは虫に依存している面もある。虫を増やす工夫も必要。

#### 【特徴ある植生の保全】

- この場所にしかない植物(ズミなど)を、マメナシを守るための犠牲とすることは避ける。

#### 【竹林の拡大抑制】

- 上池の西側に竹林が拡大している。早めに竹林の増殖を止めた方が良い。

#### 【マメナシ専門部会】

- マメナシ専門部会でマメナシの扱いを検討する。

#### 【公園名称部会】

- 公園名称部会でこの場所にふさわしい名称を検討する。

#### 【かつての里山の姿の復元に取組む】

- マメナシ専門部会や委員で、地元の方々と一緒に手入れが行なえると良い。  
(かつての道の復元のための草刈など)

### 2. マメナシ自生地や周辺の生態的な扱いについて、課題が残ったこと

#### 【自生地内の盛土の取扱い】

- 自生地内の盛土が原因で水の通りが悪くなっている。
- 乾燥化が進行し樹木が侵入している。それらを除去しないとマメナシの維持は難しい。
- 盛土を取って湿潤状態に戻せば、手をかけなくても実生が出てくる可能性がある。
- 土中で休眠している種(埋土種子)は、環境が復活すれば芽を出す。
- 雨水等の導入を最優先で取組んでから、そのほかの方策を進めていくべき。

#### 【移植されたマメナシの取扱い】

- 盛土に生えるマメナシは植栽された可能性が高い。これらのマメナシをどうするか。

#### 【マメナシ自生地保全の方向性】

- 人が関り過ぎると単なる管理地。手を入れなければマメナシが無くなる。加減が大事。
- マメナシはため池岸に自生地が多い。人の関りと共に生きてきた。
- この自生地は「里山のマメナシ」。里山環境を守っている自生地は他にない特徴。
- 小牧では適した環境を保つためにある程度手を入れる。小牧の特徴を出していく。
- 水環境を改善する、もとの地形を探す、日照を改善する、この3つの改善策を進める。

#### 【周辺を含めた環境保全の重要性】

- 人が里山を手放した結果が現状を招いている。自生地を原風景と一緒に残すかどうか。
- 雨が降って土が崩れ、そこに芽が出るような、植生遷移が戻る状態に持っていかると良い。

#### 【表層のマルチングと土壌形成】

- 草刈で採ったものをチップにして撒くと表面の富養層が早くできるのではないかな。
- 水脈がマメナシの大きな栄養源となっている。
- 人間が植えたり撒いたりすると県の指定から外れてしまう。

#### 【夏の高温の影響】

- 今年は異常気象で夏が暑いのが、マメナシが暑さに持ちこたえられるかが気になる。
- 水脈がある所では根が張っているので、持ちこたえる可能性はある。